

平成29年度

市ヶ谷台慰霊祭

について

慰霊祭実行委員会

借行社は、市ヶ谷台慰霊祭を例年どおりの9月の第3水曜日に当る9月20日、市ヶ谷駐屯地メモリアルゾーンに於いて執り行なつた。心配された台風も去り、祭典を執行するには絶好の日和となつた。

中央業務支援隊が鋭意設営した祭場は万般行き届いており、塵一つなく掃き清められ、綺麗に刈り込まれた芝生の緑が美しく映え、祭典執行に相応しい雰囲気を出していた。祭典進行の援助も合わせ衷心から感謝申し上げる。例年のとおり、阿南大将、杉山元帥、吉本大将の各碑にはそれぞれ日本酒とお水が、また特設の中央祭壇にはお焼香用の香炉、そして祭壇の右側には旧慰霊会員で銘石佐渡の赤玉石を寄贈され、霊場の整備に並々ならぬご尽力をされた宇都宮在任の高柳氏が今年も奉納された大スタンドの生花、左側には借行社も同じ生花を供えた。陸軍全航空部隊碑、晴気少佐碑にも、日本酒、お水、一对の生花を供えた。自衛隊殉職者慰霊碑には一对の生花を供えるとともに、参拝者が供える菊花が準備された。

13時30分から支援部隊と借行社の実行委員により総合予行を行い関係者の役割を再確認して、万全を期した。

一方、同じ、13時30分からグラウンドヒル市ヶ谷のご好意により、同1階口ビーに受付を開設、受付を済ませた招待者等は逐次バス（4台のピストン輸

送）で祭場へ移動、手水を済ませて復

説テント内で休息して頂く。

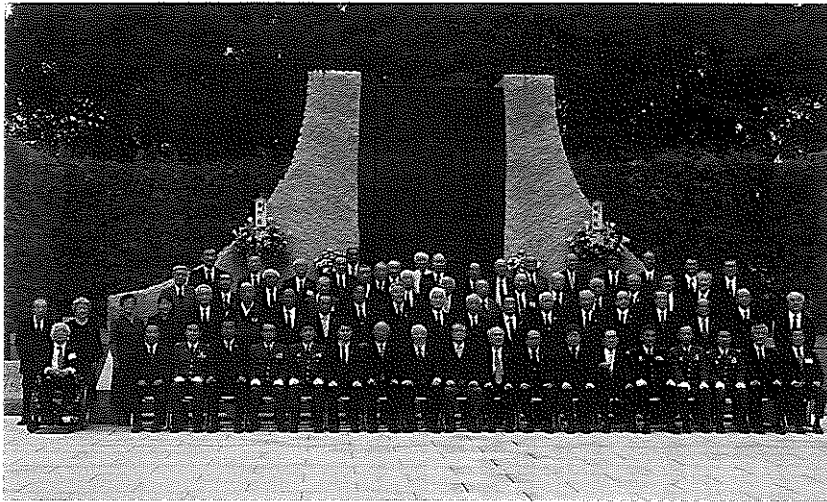
15時5分、招待者等を対象に自衛隊殉職者慰霊碑前にて通信団映像写真中隊による記念写真撮影。じ後、祭場の定位置に着席して頂く。次いで、祭が終了すると流れ解散となるため、祭式に先立ち、燕尾服に身をかためた祭主、富澤理事長が挨拶を行った。

いよいよ15時20分、今年初めて担当する武本茂（陸自83）の司会により国歌斉唱、黙祷（国の鎮め）、富澤理事長による祭文（後掲）奏上、祭電披露、尾崎良江賛助会員の指揮による借行合唱団の献歌（ふるさと・この国は・海ゆかば）3曲を奉唱、海ゆかば2回目は全員起立して斉唱を行った。次いで、祭主以下ご遺族（阿南惟正氏・中川聖氏）、国会議員、防衛省官房長高橋憲一氏他自衛隊の多くの将星、高柳實氏他旧市ヶ谷台慰霊会員、友好団体関係者、借行社会員の順で、焼香順位が逐次、読み上げられ、総勢140余名の参拝者が各慰霊墓碑前へ巡拝焼香と、自衛隊殉職隊員慰霊碑前での献花が整齊と進行して、閉会した。

復路はバスにてJ.R市ヶ谷駅、直会参加者は借行社へと案内した。

市ヶ谷台こそは、陸軍省、参謀本部、教育総監部等、はたまた陸軍士官学校、幼年学校が置かれ、明治建軍以来の基となる聖地であり、靖國神社とは趣を異にし、多くの軍人の靈魂が往時を偲ばせる逍遙の庭であらう。この慰霊祭には、いろいろな想いをもたれる人も居られようが、先の戦火に散つた多くの英靈の御霊安かれと、より多くの関係者の参列があればと願う者である。

私事で恐縮であるが、来年からは、一参列者の身となるが、自衛隊在職中、旧1号館・4号館に再三勤務し、多くの先輩から薫陶を受けた者として、十



余年この行事に携われたことに感謝し、思いを馳せながら、防衛省・自衛隊のご理解ご協力により、今後ともこの市ヶ台慰霊祭が、未永く継続されることを願って、終末を確認して、最後のバスに乗った。

16時20分から偕行社に於いて直会を実施した。司会は越智道隆会員第67の初めての登場であったが、手なれたもので、まず、主催者富澤理事長が挨拶した。次いでご遺族を代表して阿南

様、更に小田原衆議院議員、友好協力団体を代表して、日本郷友連盟の寺島会長からそれぞれご挨拶頂いた。ご遺族の中川様、友好協力団体各位、旧市ヶ台慰霊会の高柳様ご夫妻他4名、法人賛助会員各位をご紹介申し上げた後、献杯の音頭を陸士50期生102歳元氣矍鑠たる堀江様にお願いで、待ちにまつた懇親が開始された。

参加者総勢120余名による立食パーティーは立錫の余地もない程の盛況であり、宴たけなわ、例年のように軍歌・隊歌の合唱で会場はいやがおうにも盛り上がった。やがて、頃を見計らって外蘭つばさ会会長の中締めで直会の宴も滞りなく終了した。慰霊祭の記念写真を希望される方には出口でお渡しした。

今年も天候に恵まれ、大過なく全ての行事を終わることができた。

実行委員各位のご協力、特に大澤総務部長の尽力に深謝して、かく筆する。

(文責 熊谷猛陸自57)

大東亜戦争終結七十二年目を迎えた本日、帝国陸軍ゆかりの地である市ヶ谷台において平成二十九年度市ヶ谷台慰霊祭を挙げるにあたり、ご参列の皆様を代表して謹んで祭文を奏上いたします。

先の大戦においては、多くの方々が祖国と同胞の安寧を願い、アジアの解放と繁栄を実現すべく、北は酷寒不毛の地、南は酷暑瘴癘の地に赴き、陸に海にまた空において、勇敢戦闘して、散華されました。その数二百三十四万余柱に及びます。家族を故国に残して異国の地で敢然と散つて逝かれた方々の殉国のお志と一家の柱を失い後に残されたご遺族の方々の悲痛に思いを致すとき、今なお万感 胸に迫るものがあります。

市ヶ谷台に祀られた御英霊は 終戦の責任を一身に負われ、将来のわが国の繁栄と伝統ある国体の護持を希い、自決された陸軍大臣 阿南大将、第一総軍司令官杉山元帥、同軍付吉本大将、そして大本営作戦参謀晴氣少佐の御英霊とともに、特別攻撃隊あるいは空中戦で赫赫たる戦果を挙げて散華された

全陸軍航空部隊勇士の御霊であります。

す。加えて、ここは、千九百三十四名の自衛隊殉戦者の御霊を祀る地であり、言わば戦前戦後にわたる諸霊鎮魂のメモリアルゾーンであり、この地において私共が慰霊祭を執り行うことは誠に意義深いものがあります。

市ヶ谷台慰霊祭は、故瀬島龍三慰霊会会長のご尽力で毎年挙行され、平成十八年度からは、公益財団法人偕行社が主催してまいりました。明治以来、陸軍の魂の故郷であったこの市ヶ谷台に關わる英霊を慰霊することは陸軍の残した伝統を顕彰することでもあり、自衛隊殉戦者の慰霊と共に、その殉国の精神は未永く語り継がなくてはならないと、ここに決意を新たにしております。

今日我が国国民は、世界でも屈指の豊かで平和な生活を享受しております。また、アジアの諸民族はそれぞれ独立して、目覚ましい発展を遂げております。この偉大な歴史的成果は大東亜戦争で散華された多くの戦没者の方々の無私の献身が礎石となつて築かれたものであることを私たちは決して忘れることはできません。

天皇皇后陛下におかれましては、戦没者の御霊には格別のお心を寄せられかつて激戦地であった沖繩、硫黄島をはじめサイパン、パラオ、フィリピン、そして本年はベトナムへ慰霊訪問

され、戦没者の尊い御霊に、日本の国民を代表して、感謝と追悼の誠を捧げられました。私共もここに思いを新たにし、しっかりと後世に受継いでまいります。あらためて御霊への限りない尊崇と感謝の誠を捧げますとともに、安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

今や、戦後生まれの世代が主力を占めるようになり平和と繁栄に慣れるうちに、戦没者等に対する敬意と慰霊の心が風化しつつあることが憂慮されるところに、公に対する責任感の希薄化と国民道義の頹廃が懸念されております。

一方、憲法改正議論の具体化、「平和安全法制」の成立や「戦没者遺骨収集推進法」の制定により、国家としての在るべき姿に向かい、一歩前進した分野もあります。

私共は、先人から託された、この誇り高い日本の再興に今後とも努力を続けることをお誓い申し上げます。加護を切にお願い申し上げますとともに、日本国の安寧と弥栄を念じつつこの記念すべき日の慰霊の言葉といたします。

平成二十九年九月二十日

公益財団法人偕行社

理事長 富澤 暉